

学会員（教員）研究動向〔2016.4～2017.3〕

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
秋葉 武	論文(単著)	「協同組合としてのトラック共済—その生成と展開—」（日本共済協会，『共済理論研究会論文集』）1-19頁	2017.3
	研究発表等 （単独）	「協同組合としてのトラック共済—その生成と展開—」（共済理論研究会，於：主婦会館プラザエフ）	2017.2
飯田 豊	論文(単著)	「放送文化の民俗学—六輔さすらいの旅，その射程」（『ユリイカ』2016年10月号，青土社）135-143頁	2016.10
	論文(単著)	「メディア・イベント概念の理論的再構築に向けて」（『情報科学芸術大学院大学紀要』8巻）112-120頁	2017.3
	研究発表等 （単独）	「テレビが見世物だったころ—初期テレビジョンの考古学」（立命館大学ライスボールセミナー，於：立命館大学衣笠キャンパス）	2016.4
	研究発表等 （単独）	「テレビが見世物だったころ—初期テレビジョンの考古学」（NHK放送文化研究所 講演会，於：NHK放送文化研究所）	2016.7
	研究発表等 （単独）	「エフェメラル・メディアとしての写真，あるいはデジタル技術」（第3回新・視覚芸術研究会公開シンポジウム「デジタル時代における記憶と伝達」，於：C.A.P.芸術と計画会議（海外移住と文化の交流センター））	2016.8
	研究発表等 （単独）	「1970～80年代における『ビデオ』のメディア論」（日本マス・コミュニケーション学会秋季研究発表会／メディア文化研究部会ワークショップ「メディアとしてのビデオ—映像の保存・所有をめぐる感覚の歴史と現在」，於：帝京大学八王子キャンパス）	2016.10
	研究発表等 （単独）	「メディア・イベント概念の理論的再構築に向けて」（シンポジウム「戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学」，於：キャンパスプラザ京都）	2016.11
	研究発表等 （単独）	「ソーシャルメディア社会を生きる—大学教育における課題と展望」（人権・ハラスメント研修会，於：福山市立大学）	2016.12
	研究発表等 （単独）	「テレビが見世物だったころ—初期テレビジョンの考古学」（MAGNET公開研究会「いま，テレビになにが可能か #01—その草創期から問いなおす」，於：成蹊大学サテライト・オフィス）	2016.12
	研究発表等 （単独）	「テレビ研究の今日的課題」（MAGNET公開研究会「いま，テレビになにが可能か #02—情況から考える」，於：関西大学梅田キャンパス）	2017.1
	研究発表等 （共同）	「テレビと講談—旭堂南陽，最後のテレビ出演」（『新奇なお茶の間世界』テレビと講談」，於：CEKAI）	2016.11
	その他(単著)	「テレビ揺籃期を駆けたふたりの軌跡から学ぶべきこと」（『月刊民放』2016年11月号，日本民間放送連盟）30-31頁	2016.11
	その他(単著)	「可能性としてのキュレーション」（『宣伝会議』2017年3月号，宣伝会議）104-105頁	2017.2
	その他(単著)	「若手研究者のテレビ離れ—局と携え未来考える場を」（『民間放送』2017年3月13日号，日本民間放送連盟）2頁	2017.3
	そ の 他 （コメンテーター）	「飯田豊著『テレビが見世物だったころ—初期テレビジョンの考古学』書評会」（第59回文化社会学研究会，於：早稲田大学戸山キャンパス）	2016.6
石倉 康次	研究発表等 （単独）	「部落解放運動と三木一平 ～戦後初期の運動に関わる三木資料の検討を中心に～」（部落問題研究者全国集会，於：同志社女子大学今出川キャンパス）	2016.10

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
石倉 康次	研究発表等 (単独)	「社会福祉研究の課題と方向性—承認とケアの倫理にもふれて—」(総合社会福祉研究所所宿研究会、於：阿倍野市民学習センター)	2017. 1
	その他(単著)	「社会福祉研究の課題と方向性—承認とケアの倫理にもふれて—」(『福祉のひろば』2017年3月号、2017年) 8-11頁	2017. 3
石田賀奈子	著書(分担執筆)	『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉 子ども家庭福祉』(倉石哲也・伊藤嘉余子監修、伊藤嘉余子・澁谷昌史編、ミネルヴァ書房) 190-211頁	2017. 2
	論文(共著)	「子どもの行動上の困難さによる措置変更のプロセスと支援の課題」(伊藤嘉余子・千賀則史・久保樹里他、『社会問題研究』66巻、大阪府立大学人間社会システム科学研究科) 13-26頁	2017. 2
	研究発表等 (共同)	「社会的養護における措置変更に関する全国実態調査1：措置変更の実際」(野口啓示・伊藤嘉余子、日本子ども家庭福祉学会第17回大会、於：日本社会事業大学)	2016. 6
	研究発表等 (共同)	「社会的養護における措置変更に関する全国実態調査2：措置変更に影響を与える要因の分析」(野口啓示・伊藤嘉余子、日本子ども家庭福祉学会第17回大会、於：日本社会事業大学)	2016. 6
	研究発表等 (共同)	「乳児院から他施設等への措置変更における『つなぎ支援』とパーマネンシーの保障—施設インタビュー調査の分析からの考察—」(野口啓示・伊藤嘉余子他、日本子ども家庭福祉学会第17回大会、於：日本社会事業大学)	2016. 6
	研究発表等 (共同)	「子どもの行動上の困難さによる措置変更のプロセスと支援の課題—施設職員へのインタビュー調査からの分析—」(伊藤嘉余子・野口啓示・千賀則史他、日本社会福祉学会第64回秋季大会、於：佛教大学)	2016. 9
	研究発表等 (共同)	「里親への措置変更プロセスに関する質的研究—里親を対象としたインタビュー調査からの分析—」(福田公教・千賀則史・原田句哉他、日本社会福祉学会第64回秋季大会、於：佛教大学)	2016. 9
	研究発表等 (共同)	「社会的養護における措置変更の実際 (1) —措置変更による退所児童を対象にした全国実態調査より得られた知見—」(野口啓示・伊藤嘉余子、日本社会福祉学会第64回秋季大会、於：佛教大学)	2016. 9
	研究発表等 (共同)	「社会的養護における措置変更の実際 (2) —措置変更による退所児童を対象にした全国調査の因子分析を通して—」(野口啓示・伊藤嘉余子、日本社会福祉学会第64回秋季大会、於：佛教大学)	2016. 9
石田 智巳	研究発表等 (共同)	「スポーツ権を視野に入れた教科論における教科内容と「観」の変革」(加登本仁・森敏生・丸山真司、日本スポーツ教育学会第33回大会、於：和歌山大学)	2016.10
市井 吉興	その他(分担執筆)	『よくわかるスポーツマネジメント』(柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編著、ミネルヴァ書房) 114-115頁	2017. 3
伊藤 隆司	論文(単著)	「物語をととして向き合いたいこと～絵本『おにたのぼうし』再論」(『語り合う文学教育』15号、語り合う文学教育の会) 8-16頁	2017. 3
伊東 寿泰	著書(分担執筆)	“Chapter 1: Reflections on English language education in Japan: An insider's view” (Cripps, A (Ed) 『Perspectives on English Language Education in Japan』, CreateSpace) 15-38頁	2016. 6
乾 亨	その他(単著)	「地域住民組織の明日を考える (追補版) ～地域コミュニティにとっての協議会型住民自治組織の意味」(『まちむら』134号、公益財団法人あしたの日本を創る協会) 36-40頁	2016. 6

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
乾 亨	その他(単著)	「コミュニティ政策学会第14回大会・分科会報告『地域コミュニティのマネジメント』」141-142頁	2016. 7
瓜生 吉則	研究発表等 (単独)	「『名馬』を必要とする社会」(日本記号学会第36回大会、於：大阪大学吹田キャンパス)	2016. 5
漆原 良	研究発表等 (共同)	「運動系列の予測認知における緩徐性電位及び脳波周波数の変動」(縄田翔吾・石田裕子・荒木秀夫、日本生理人類学会第74回大会、於：和倉温泉観光会館)	2016.10
	研究発表等 (共同)	「ボール・キック動作の認知に伴う動作系列からの予測効果～特に事象関連電位及び ERS/ERD からの検討～」(高橋直樹・縄田翔吾・荒木秀夫、日本生理人類学会第74回大会、於：和倉温泉観光会館)	2016.10
	その他(共著)	“Multimodal analysis based on high-field magnetic resonance and motor evoked potentials” (Shunya Nakane・Kaori Furutani・Masafumi Harada・Naoko Matsui・Yuishin Izumi and Ryuji Kaji, Clinical and Experimental Neuroimmunology 8 巻 1 号、日本神経免疫学会) 43-46頁	2017. 2
江口 友朗	論文(共著)	“An Aspect of Private Mutual Assistance Among Households and Its Mechanism of Redistribution in Thailand (in Korean Language)” (Sinudom ARISSARA in random order, 『Korean Sociological Review 2016』 7 巻、Korean Sociol Association) 25-46頁	2016. 7
	研究発表等 (単独)	「家計間での私的相互援助の実態の多国間比較：持続可能な社会保障システム、コミュニティ、幸福度を巡って」(アサヒグループ学術振興財団研究助成報告会、於：アサヒグループ本社ビル)	2016.10
遠藤 保子	論文(単著)	「日本スポーツ人類学会研究活動の動向と展望」(『2016年第4回亜細亜運動人類学国際研討會論文集』、日本スポーツ人類学会) 25-33頁	2016. 5
	論文(共著)	「エチオピアの舞踊特性と舞踊のデジタル記録・解析・考察(上)」(相原進・野田章子, 『立命館産業社会論集』 52巻 3 号) 93-113頁	2016.12
	論文(共著)	「エチオピアの舞踊特性と舞踊のデジタル記録・解析・考察(下)」(相原進・野田章子, 『立命館産業社会論集』 52巻 4 号) 97-115頁	2017. 3
大谷いづみ	著書(分担執筆)	「第9章 人間の尊厳と死—『死の尊厳』の語られ方を読み解く」(柏木恵子・高橋恵子編, 『人口の心理学へ—少子高齢社会の命と心』、ちとせプレス) 183-197頁	2016. 7
	論文(単著)	「『安楽死・尊厳死』をめぐる歴史的・社会的背景」(『月刊保団連』 1223号、全国保険医団体連合会) 4-9 頁	2016. 9
	論文(単著)	「『生きるに値しない生命終結の許容』はどのように語られたか—日本法学界における『安楽死・尊厳死』論史の一断章」(『現代思想』 44巻19号、青土社) 102-113頁	2016.10
	そ の 他 (Guest lecturer)	“Euthanasia”, Advanced Readings in Japanese Studies, University of Manchester, School of Arts, Languages and Cultures	2016. 4
大野 威	論文(単著)	「アメリカにおける賃金上昇率低下の実態とその背景：景気拡大期の比較をととして」(『立命館産業社会論集』 52巻 4 号) 53-66頁	2017. 3
岡田 まり	研究発表等 (共同)	「ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの有用性—社会福祉士のスーパービジョン養成プログラムの開発と評価にむけて—」(野村豊子・片岡靖子、日本ソーシャル学会第33回大会、於：同志社大学今出川キャンパス)	2016. 7

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
岡田 まり	研究発表等 (共同)	「グループ・スーパービジョンの現状と課題—認定社会福祉士制度におけるシステム構築—」(野村豊子・片岡靖子・潮谷有二・潮谷恵美, 日本社会福祉学会第64回秋季大会, 於: 佛教大学紫野キャンパス)	2016. 9
	その他(単著)	「福祉の現場から—社会福祉士のスーパービジョン」(『地域ケアリング』18巻5号, 北隆館/ニュー・サイエンス社) 80-82頁	2016. 5
	そ の 他 (同会・バリスト等)	「社会福祉士の専門性・倫理性向上をめざして」(日本社会福祉士全国大会第24回大会, 於: 愛媛県ひめぎんホール)	2016. 7
岡本 尚子	論文(共著)	「小学校教員養成における正課外行事での教職能力育成の可能性」(山下芳樹, 『立命館産業社会論集』52巻4号) 83-96頁	2017. 3
	研究発表等 (単独)	「小学校教員養成の正課外行事における教職能力の育成」(日本教育実践学会第19回研究会, 於: 兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス)	2016.11
	研究発表等 (共同)	「助言者—学習者の関係における視線配分と助言の有効性」(黒田恭史, 第34回日本生理心理学会大会, 於: 名古屋大学)	2016. 5
	研究発表等 (共同)	“Influence of hints in the teaching-learning process: A neuroscientific study” (Yasufumi Kuroda, European Association for Research on Learning and Instruction, 於: Royal Tropical Institute, Netherlands)	2016. 6
	研究発表等 (共同)	“Changes in Brain Activity While Engaging in Number Sequence Questions of Varying Difficulty” (Yasufumi Kuroda, 13th International Congress on Mathematical Education, 於: University of Hamburg, Germany)	2016. 7
	研究発表等 (共同)	「教員養成と連動した不登校児童生徒のための算数・数学デジタルコンテンツの制作」(黒田恭史・原清治, 日本教育学会第75回大会, 北海道大学)	2016. 8
	研究発表等 (共同)	「算数文章題解決過程における視線移動の特徴」(黒田恭史・前迫孝憲, 教育システム情報学会第41回全国大会, 於: 帝京大学宇都宮キャンパス)	2016. 8
	研究発表等 (共同)	「教員養成課程学生と非課程学生の除法筆算過程観察時の着目点の違い」(黒田恭史・野村紗千, 数学教育学会秋季例会, 於: 関西大学千里山キャンパス)	2016. 9
	研究発表等 (共同)	“What does development of brain activity measuring apparatus bring to educational research?” (Yasufumi Kuroda, 計測自動制御学会ライフエンジニアリング部門シンポジウム, 於: 大阪国際交流センター)	2016.11
	研究発表等 (共同)	“Laterality Index plot of NIRS data indicates the brain activation laterality for calculation test and for Kraepelin performance test” (Hideo Eda・Madoka Yamazaki・Yasufumi Kuroda, Society for Neuroscience 2016, 於: San Diego Convention Center)	2016.11
	研究発表等 (共同)	“Can we capture lateralization of brain activities with EEG and/or NIRS?” (Madoka Yamazaki・Hideo Eda・Yasufumi Kuroda, Society for Neuroscience 2016, 於: San Diego Convention Center)	2016.11
	研究発表等 (共同)	「図形の回転移動課題解決時における視線移動特徴」(西村綾夏・鈴木麻希・中谷彦彦, 教育システム情報学会2016年度学生研究発表会, 於: 関西学院大学大阪梅田キャンパス)	2017. 2
	研究発表等 (共同)	「ヒント提示過程における助言者の視線移動特徴」(黒田恭史, 数学教育学会2017年度春季年会, 於: 首都大学東京南大沢キャンパス)	2017. 3
小川 栄二	その他(共著)	「要介護1・2の生活援助「原則自己負担化」問題事例アンケートまとめ」(『要介護1・2生活援助「原則自己負担化」問題事例アンケートまとめ』, 京都ヘルパー連絡会調査分析委員会) 1-50頁	2016. 7

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
小澤 亘	著書(共編著)	『地域福祉のエンパワメントー協働がつむぐ共生と暮らしの思想』(小澤亘・加藤博史編、晃洋書房) 115-250頁	2017. 3
	論文(単著)	「ボランティア文化研究の挑戦ー日・韓・加3カ国ボランティア意識調査を振り返って」(『立命館産業社会論集』52巻1号) 33-51頁	2016. 6
	論文(単著)	「超高齢社会に直面する日本とボランティア・セクター」(中谷義和他編、『新自由主義的グローバル化と東アジア：連携と反発の動態分析』、法律文化社) 197-219頁	2016.12
	論文(共著)	「JOY トークによる地域福祉のエンパワメント」(伊豆田千加・森淑子、小澤亘・加藤博史編、『地域福祉のエンパワメントー協働がつむぐ共生と暮らしの思想』、晃洋書房)	2017. 3
	研究発表等 (共同)	「ディスレクシア児童に対する『テストの音声化』支援」(濱寄愛夏、日本デジタル教科書学会京都大会、於：京都産業大学)	2016. 8
	研究発表等 (共同)	「外国人児童に向けた iPad 放課後学び支援教室の実践」(蓮尾和美・中塚愛里・神鞠子、日本デジタル教科書学会京都大会、於：京都産業大学)	2016. 8
	その他(単著)	「資料編：民生委員調査報告書」(小澤亘・加藤博史編、『地域福祉のエンパワメントー協働がつむぐ共生と暮らしの思想』、晃洋書房) 171-250頁	2017. 3
角田 将士	論文(単著)	「アクティブ・ラーニング時代に求められる授業づくりの視点ー見方考え方の成長と深い学びー」『研究集録』53号、(大分県高等学校教育研究会地理歴史科公民科部会) 53-59頁	2017. 3
	論文(共著)	「学ぶ意義を意識した『深い学び』を促す授業の創造ー見方・考え方の成長を意視点としたアクティブ・ラーニング型授業の批判的検討ー」(平田浩一、『立命館教職教育研究』4号、立命館大学教職教育推進機構) 1-10頁	2017. 3
	その他(単著)	「社会科好きにする！意欲がアップする授業開き 私の工夫 クイズ・小話で授業開き！ー『小学校での学習に挑戦し、見方考え方の成長を見据えた授業開きをー〈憲法〉をテーマにしてー』」(『社会科教育』684号、明治図書) 32-33頁	2016. 4
	その他(単著)	「『主権者』として必要な知識を社会科でどう育てるか『戦争と平和』をどう教えるかーまずはワンパターンな思考からの脱却をー」(『社会科教育』686号、明治図書) 56-57頁	2016. 6
	その他(単著)	「『憲法』の授業をつくるーキー発問と授業づくり：小学校・憲法の授業ーキー発問と授業づくり『学びの発展を意識した授業づくりを』」(『社会科教育』689号、明治図書) 92-95頁	2016. 9
	そ の 他 (同会・パナリスト等)	「『社会に開かれた』教育課程に向けて」(日本NIE学会第13回大会、於：愛媛大学)	2016.11
	そ の 他 (同会・パナリスト等)	「見方や考え方の成長を意識したカリキュラム・単元・授業づくりを」(平成28年度嶺南教育実践フォーラム、於：福井県嶺南教育事務所)	2017. 2
	そ の 他 (同会・パナリスト等)	「今、求められる社会科授業改善の視点」(平成28年度嶺南教育実践フォーラム、於：福井県嶺南教育事務所)	2017. 2
	そ の 他 (同会・パナリスト等)	「教科教育学者のパフォーマンスを規定する戦略原型(パラダイム)とは」(科研費研究「教科教育学のパラダイムと社会的責任の国際比較ー社会科教育研究者が果たす役割とはー」中間成果報告会、於：広島大学)	2017. 3
	そ の 他 (同会・パナリスト等)		
柏木 智子	著書(共編著)	『子どもの貧困・不利・困難を越える学校』(柏木智子・仲田康一編、学事出版)	2017. 3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
柏木 智子	著書(分担執筆)	「学校と地域の連携による校区ソーシャル・キャピタルの醸成」(露口健司編、『ソーシャル・キャピタルと教育—「つながり」づくりにおける学校の役割』、ミネルヴァ書房) 64-86頁	2016. 9
	著書(分担執筆)	「子どもの『つながり』を醸成するカリキュラム・マネジメント」(露口健司編、『「つながり」を深め子どもの成長を促す教育学』、ミネルヴァ書房) 94-122頁	2016.10
	研究発表等 (単独)	「『地域と共にある学校づくり』リーダー研修会」(奈良県教育委員会主催、於：いかるがホール)	2016. 7
	研究発表等 (単独)	「子どもとつながる学校—子どもの貧困対策とケアする学校文化の形成」(日本学校改善研究会、於：愛媛大学)	2016.10
	研究発表等 (共同)	「保護者・住民の学校経営参加に対する教員の意識に関する研究」(大林正史、日本教育経営学会第56回大会、於：京都教育大学)	2016. 6
	研究発表等 (共同)	「結束型地域ソーシャル・キャピタルの維持要因と教育的功罪—つながりの強い地域と学校との連携事例より—」(橋本洋治・仲田康一、日本教育経営学会第56回大会、於：京都教育大学)	2016. 6
	そ の 他 (シンポジスト)	「共生社会の実現と教育経営の課題—多様性に教育はどうこたえるか：子どもの貧困対策研究の立場から—」(日本教育経営学会第56回大会、於：京都教育大学)	2016. 6
加藤 雅俊	論文(単著)	「新しい政治学(の教科書)には何が必要か—政治学におけるメタ理論的基礎の必要性—」(『名古屋大学法政論集』269号、名古屋大学大学院法学研究科) 75-102頁	2017. 1
	その他(単著)	「学界展望(政治学・政治理論)」(日本政治学会編、『日本政治学会年報2016—Ⅱ政党研究のフロンティア』、木鐸社) 378-381頁	2016.12
金澤 悠介	著書(分担執筆)	「シミュレーション：コンピュータで予測・説明する」(朝岡誠共著、小林盾・海野道郎編、『数理社会学の理論と方法』、勁草書房) 73-87頁	2016. 7
	研究発表等 (単独)	「地方公立大学における社会学教育・研究の現状と課題：首都圏との比較をもとに」(第63回東北社会学会大会、於：青森県観光物産館アスパム)	2016. 7
	研究発表等 (単独)	「主観的社会移動のメカニズム：世代差に着目した分析」(第62回数理社会学会大会、於：金沢大学角間キャンパス)	2016. 8
	研究発表等 (単独)	「移動経験という側面からみた現代日本の社会意識の構造：学歴移動・取得財産・主観的社会移動」(第82回日本社会学会大会、於：立教大学)	2016.10
	研究発表等 (共同)	“Globalization meets Social Movement Network: A Quantitative Analysis of the Inter-Organizational Network Structure in Anti-Globalization Action in Japan” (Kyoko Tominaga, 2016台湾社会学年會、於：國立東華大學人文社會科學學院)	2016.11
金山 千広	著書(分担執筆)	『図とイラストで学ぶ 新しいスポーツマネジメント』(山下秋二・中西純司・松岡宏高編著、大修館書店) 176-187頁	2016.11
	著書(分担執筆)	『よくわかるスポーツマネジメント』(柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編著、ミネルヴァ書房) 148-151頁	2017. 3
	研究発表等 (単独)	「障害者優先スポーツ施設のサービス方略と組織特性に関する研究」(“アダプテッド/医療/障がい者”体育・スポーツ合同コンGRESS in 北海道、於：北海道教育大学岩見沢キャンパス)	2016. 7

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
金山 千広	研究発表等 (単独)	「障がい者スポーツからみるスポーツの協働システムの可能性」(日本体育学会第67回大会、於：大阪体育大学)	2016.8
	研究発表等 (単独)	「大学体育における『アダプテッド・スポーツ』の展開を考える」(平成28年度 全国大学体育連合近畿支部研修会、於：大阪大学豊中キャンパス)	2016.11
	研究発表等 (単独)	「障がい者スポーツと女性」(平成28年度兵庫体育・スポーツ科学学会シンポジウム：オリンピック・パラリンピックと女性スポーツ振興、於：神戸市男女共同参画センターあすてつぷ KOBE)	2016.12
	その他(単著)	「オリンピック・パラリンピックの競技化・高度化と障害者スポーツ」(『体育・スポーツ経営学研究』第30巻、日本体育・スポーツ経営学会) 11-13頁	2017.3
	その他(共著)	『新版障がい者スポーツ指導教本初級・中級』(日本障がい者スポーツ協会編、ぎょうせい) 28-31頁	2016.4
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「大阪が育んできた障がい者スポーツ：障がい者スポーツセンターの発祥から現在そして2020年以降に向けて」(日本体育学会第67回大会、於：大阪体育大学)	2016.8
金山 勉	論文(単著)	「米メディア競争環境の変化と大規模なメディア合併・買収—1980年代の規制緩和と政策、96年電気通信法、地上放送デジタル化のインパクト—」(『立命館産業社会論集』52巻3号) 1-18頁	2016.12
	論文(単著)	「日本の放送政策研究—1950年代から2000年代までを概観する—」(『立命館産業社会論集』52巻4号) 37-51頁	2017.3
	研究発表等 (単独)	「変貌をとげる日韓のメディア状況：環境変化の中で浮かびあがる課題を国際メディア比較研究の観点から概観する」(Korea-Japan Joint Seminar: Similarities and Differences in Media Use of Korean and Japanese Adolescents、於：韓国・済州市コープ・シティホテル)	2016.10
	その他(共著)	「日韓の若者層にみられるメディア利用の同質性と類似性」(増田幸子・竹村朋子・Kang, Shinkyu 他、『二国間交流事業日韓共同研究・セミナー報告書』、日本学術振興会) 79-83頁	2017.3
唐鎌 直義	著書(共著)	『ここまで進んだ！ 格差と貧困』(稲葉剛・青砥恭・唐鎌直義他著、新日本出版社) 3-8・57-78頁	2016.4
	論文(単著)	「日本における貧困の広がり」と所得再分配機能の衰退」(『月間保団連』1216号、全国保険医団体連合会) 20-26頁	2016.4
	その他(単著)	「高齢者の貧困とその原因」(『地域ケアリング』18巻4号、ニュー・サイエンス社) 25-29頁	2016.4
権 学俊	論文(単著)	「東アジアのスポーツ・ナショナリズム」(『スポーツ社会学研究』24巻2号、スポーツ社会学会) 69-74頁	2016.10
	論文(単著)	「鹿児島県知覧町における特攻戦跡と朝鮮人特攻隊員に関する小考」(『人文社会科学研究所』24巻、世明大学人文社会科学研究所) 85-105頁	2016.11
	論文(単著)	「韓国における朝鮮人特攻隊員像の変容」(『立命館産業社会論集』52巻4号) 67-81頁	2017.3
	研究発表等 (単独)	「スポーツを通じた日韓交流・日韓友好関係の構築」(開発と平和のためのスポーツ国際デー記念シンポジウム、於：立命館大学朱雀キャンパス)	2016.4
	研究発表等 (単独)	「国民体育大会のあり方と問題を考える」(フォーラム滋賀：2024年の国民体育大会の問題を考える、於：草津市民交流プラザ)	2016.10

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
権 学俊	研究発表等 (単独)	「東京オリンピックの政治性—三つのオリンピックの連続と断絶」(韓国研究財団研究会、於：堤川市立図書館、韓国)	2016.11
	研究発表等 (単独)	「2002年日韓ワールドカップの歴史的意味と国民意識」(京都自由大学定例研究会、於：京都自由大学)	2017. 1
國廣 敏文	著書(分担執筆)	「フランスのポピュリズム—統合と排除の狭間で」(中谷義和・川村仁子・高橋進・松下冽編、『ポピュリズムのグローバル化を問う：揺らぐ民主主義のゆくえ』、法律文化社) 81-101頁	2017. 3
	論文(共訳)	「児童虐待予防対策および養子縁組改革法：米国合衆国連邦法 第42条 公衆衛生と福祉」(上野善子、『名古屋短期大学研究紀要』55号、名古屋短期大学) 195-212頁	2017. 3
黒田 学	論文(単著)	「ポーランド社会の今(1)—障害者教育と福祉、戦争と平和の課題を通じて—」(『人間発達研究所通信』32巻2号、人間発達研究所) 10-13頁	2016. 9
	論文(単著)	「ポーランド社会の今(2)—障害者教育と福祉、戦争と平和の課題を通じて—」(『人間発達研究所通信』32巻3号、人間発達研究所) 6-12頁	2016.12
	論文(単著)	「ポーランド社会の今(3)—障害者教育と福祉、戦争と平和の課題を通じて—」(『人間発達研究所通信』32巻4号、人間発達研究所) 16-20頁	2017. 3
	論文(共著)	“The New Approach to Special Needs Education and the Construction of the Inclusive Society in Vietnam: Based on the Viewpoints of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD)” (Dinh Nguyen Trang Thu, Journal of Science of Hanoi National University of Education, Vietnam 61巻11号) 152-159頁	2016.11
	論文(共著)	「地方分権改革と地域再生に関する調査研究—京都府北部地域における生活福祉とガバナンス—」(中西典子・長谷川千春・野村実、『立命館産業社会論集』52巻3号) 125-138頁	2016.12
	論文(共著)	“COMPARATIVE STUDY OF EDUCATION FOR STUDENTS WITH SPECIAL NEEDS IN JAPAN AND POLAND” (Ewa Maria Kulesza, SZKOŁA SPECJALNA 287号, The Maria Grzegorzewska University Warsaw, Poland) 28-40頁	2017. 2
	研究発表等 (単独)	「ベトナムにおけるインクルーシブ教育の動向と課題—ハノイ、ダナン、フエ、ホーチミン市でのインタビュー調査を通じて—」(第5回ベトナム学国際会議、於：ベトナム国際コンベンションセンター)	2016.12
斎藤 真緒	論文(単著)	「〈総論〉増える男性介護者の実態と家族介護者への支援の課題」(『コミュニティ・ケア』229号、日本看護協会出版会) 50-55頁	2016. 8
	論文(単著)	“Current Issues regarding Family Caregiving and Gender Equality in Japan: Male Caregivers and the Interplay between Caregiving and Masculinities” (Japan Labor Review 14巻1号, The Japan Institute for Labour Policy and Training) 92-111頁	2017. 1
坂田 謙司	論文(単著)	「街頭放送の社会史—北海道の街頭放送と社会の関係—」(『立命館産業社会論集』52巻4号) 19-36頁	2017. 3
坂本 利子	著書(共編著)	『多文化間共修—多様な文化背景をもつ大学生の学び合いを支援する』(坂本利子堀江未来・米澤由香子編著、学文社) 155-178頁	2017. 2
櫻井 純理	著書(共著)	『新自由主義的グローバル化と東アジア—連携と反発の動態分析』(中谷義和・朱恩佑・張振江編、法律文化社) 177-196頁	2016.11

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
櫻谷真理子	著書(共編著)	『ひきこもる子ども・若者の思いと支援』(春日井敏之・竹中哲夫・藤本文朗共編、三学出版) 244-264頁	2016. 7
	研究発表等 (単独)	「児童養護施設退所者へのアフターケア—施設職員へのアンケート調査を基に—」(日本生活指導学会第34回研究大会、於：北海道大学)	2016. 9
	その他(単著)	「児童養護施設退所者へのアフターケアの現状と課題—施設職員へのアンケート調査を基に—」(『子どもと福祉』Vol.9巻、明石書店) 122-126頁	2016. 7
笹野恵理子	研究発表等 (単独)	「個人史にみる学校音楽カリキュラム経験—『学びの履歴』のライフストーリー—」(第4回近現代教育実践史研究会、於：北海道教育大学旭川校)	2016. 6
	研究発表等 (単独)	「学校音楽カリキュラム経験研究—教師の『語り』にみるカリキュラム経験」(第8回近現代教育実践史研究会、於：和歌山大学)	2017. 3
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	“Music Identity and School Music Culture: the experience of school music curriculum” (日伊音楽文化研究会シンポジウム、於：フラテッリ協会、イタリア)	2016.11
	その他(招待発表)	“The experience of school music curriculum: a comparative study of Japanese and Korean curriculum” (日韓教育研究会、於：ロイヤルホテルソウル、韓国)	2017. 1
佐藤 詩恵	論文(単著)	“On the Functions of “I think” as a Complex Particle: Positional Variations and Functional Differences” (Conference Handbook 34., The Thirty-Fourth Conference of the English Linguistic Society of Japan.) 199-204頁	2016.11
	論文(単著)	“On establishing “I think” as a final particle in interactions: Some comparisons with sentence-final particles in Japanese” (Journal of Pragmatics 110巻、Elsevier B.V.) 83-98頁	2017. 3
	研究発表(国内)	“On the Functions of “I think” as a Complex Particle: Positional Variations and Functional Differences”. The Thirty-Fourth Conference of the English Linguistic Society of Japan. Kanazawa University.	2016.11
鎮目 真人	論文(単著)	「日本における年金の公私ミックスの動向と課題」(『季刊 個人金融』11巻4号、ゆうちょ財団) 36-47頁	2017. 2
下條 正純	研究発表等 (単独)	「日本語学習者と読書—ライトノベルは難しいか—」(BALI-ICJLE 2016 日本語教育国際研究大会、於：インドネシア Bali Nusa Dua Convention Center)	2016. 9
杉本通百則	著書(分担執筆)	『アスベスト公害の技術論—公害・環境規制のあり方を問う—』(田口直樹編著、ミネルヴァ書房) 10-31・117-143・194-224・225-252・253-267頁	2016.11
住家 正芳	論文(単著)	“Behind the Mask of the Secular: Habermas’s Institutional Translation Proviso and Japanese Court Cases” (Journal of Religion in Japan 5巻2-3号、) 153-175頁	2016.10
竹内 謙彰	論文(共著)	「新しい発達診断法開発の試み (2) —幼児期における発達の基本構造の検出—」(富井奈葉実・荒木穂積・中村隆一他、『立命館産業社会論集』52巻1号)	2016. 6
	研究発表等 (単独)	「『三つの願い』の意味するもの：予備的調査研究—大学生における価値観との関連の検討—」(日本発達心理学会第28回大会、広島国際会議場)	2017. 3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
竹内 謙彰	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(7)―幼児期：他児への関心を高める製作活動の工夫―」(石原顕子・地下昌里・谷口万帆他, 日本自閉症スペクトラム学会第15回研究大会, 於：白百合女子大学)	2016. 8
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(8)―小学校低学年：集団遊びを成立させるためのスタッフの工夫―」(青木美穂・立花咲葵・松元佑他, 日本自閉症スペクトラム学会第15回研究大会, 於：白百合女子大学)	2016. 8
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と主体性を尊重した療育プログラム開発(9)―小学校高学年：仲間意識を高めるルール設定の工夫―」(高祥也・下地咲紀・祝心怡他, 日本自閉症スペクトラム学会第15回研究大会, 於：白百合女子大学)	2016. 8
	研究発表等 (共同)	「思春期・青年期の自閉症スペクトラム児の療育プログラムの開発(1)―イメージの共有による自主性・協同性を高める活動について―」(加納恵理子・松元佑・荒木穂積, 日本自閉症スペクトラム学会第15回研究大会, 於：白百合女子大学)	2016. 8
	研究発表等 (共同)	「思春期・青年期の自閉症スペクトラム児の療育プログラム開発(2)―リレーション活動とソーシャル・スキル活動の統合を目指して―」(小林里帆・津幡法胤・西川大輔他, 日本自閉症スペクトラム学会第15回研究大会, 於：白百合女子大学)	2016. 8
竹濱 朝美	著書(分担執筆)	「下方一方向潮流から双方向潮流の電力システムへ, 風力・太陽光の系統連系制度」(植田和弘監修, 大島堅一・高橋洋編著, 『地域分散型エネルギーシステム』, 日本評論社) 147-166頁	2016. 9
	論文(単著)	“Wind and PV Energy Integration in Distribution Grids and Bidirectional Grid Operations: A Comparative Analysis in Japan and Germany” (『立命館産業社会論集』52巻2号) 13-28頁	2016. 9
	論文(共著)	「風力・太陽光電力の出力変動, 予測誤差と予備力の関係, ドイツの経験」(安田陽, 新エネルギー・環境, 高電圧 合同研究会資料集, 電気学会) 145-150頁	2016. 7
	研究発表等 (共同)	「風力・太陽光電力の出力変動, 予測誤差と予備力の関係, ドイツの経験」(安田陽, 新エネルギー・環境, 高電圧 合同研究会, 京都大学吉田キャンパス)	2016. 7
	研究発表等 (共同)	「風力・太陽光電力の出力変動と地域間送電, 予備力の地域間融通に関するドイツの経験」(斎藤哲夫, 第38回風力エネルギー利用シンポジウム, 科学技術館)	2016.11
	その他(共著)	「風力・太陽光電力の出力変動と地域間送電, 予備力の地域間融通に関するドイツの経験」(斎藤哲夫, 第38回風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, 日本風力エネルギー学会) 235-238頁	2016.11
田村 和宏	著書(編著)	『発達のひかりは時代に充ちたか?』(田村和宏・玉村公仁彦・中村隆一, クリエイトかもがわ) 8-45頁	2017. 2
	論文(共著)	「発達保障をめぐる課題2017―発達保障をめぐる動向と私たちの課題―」(高田智行, 『人間発達講座ひととしていきる―私の物語りがはじまる―』5-30巻, 人間発達研究所) 6-23頁	2017. 1
	研究発表等 (単独)	「重度重複障害のある人の在宅支援～福祉の立場から～」(平成28年度 障害児・者相談支援事業全国連絡協議会 コーディネーター研修会, 於：ホテルグリーンタワー幕張)	2016. 6

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
田村 和宏	研究発表等 (単独)	「障がいのある子ども理解を深め、ともに育ちあう」(兵庫県学童保育指導員講座・学童保育講座、於：あすてっぷ KOBE、神戸市男女共同参画センター)	2016. 9
丹波 史紀	論文(単著)	「生活復興と情報」(『災害情報』14号、日本災害情報学会) 56-62頁	2016. 6
	論文(単著)	「ひとり親家庭の自立と就労支援をめぐる現状と課題」(『社会福祉研究』126号、鉄道弘済会) 60-67頁	2016. 7
	論文(単著)	「東日本大震災からの復興とまちづくりの課題」(『人権と部落問題』68巻10号、部落問題研究所) 22-29頁	2016. 9
	その他(単著)	「震災・原発問題 東日本大震災から6年目をむかえて」(『月刊ゆたかなくらし』412号、全国老人福祉問題研究会) 24-26頁	2016.11
筒井 淳也	著書(単著)	『結婚と家族のこれから：共働き社会の限界』(光文社新書) 全260頁	2016. 6
	著書(共著)	「夫婦の情緒関係：結婚満足度の分析から」(稲葉昭英・保田時男・田淵六郎・田中重人編『日本の家族1999-2009：全国家族調査 [NFRJ] による計量社会学』、東京大学出版会) 23-46頁	2016. 6
	著書(共編著)	『パネルデータの調査と分析・入門』(筒井淳也・水落正明・保田時男編、ナカニシヤ出版) 41-45頁	2016.11
	論文(単著)	“Female Labor Participation and the Sexual Division of Labor: A Consideration on the Persistent Male-Breadwinner Model” (Japan Labor Review 13巻3号, The Japan Institute for Labour Policy and Training) 80-100頁	2016. 7
	論文(単著)	「共働き社会と家族の機能：生活満足度に注目して」(『季刊個人金融』11巻2号、ゆうちょ財団) 10-17頁	2016. 8
	論文(単著)	“Dual-earner Couple Society as a Solution?: From a Perspective of Studies on Child-birth” (Sociological Theory and Methods 31巻6号、数理社会学会) 84-93頁	2016. 8
	論文(単著)	「数字を使って何をするのか：計量社会学の行方」(『現代思想』45巻6号、青土社) 162-177頁	2017. 3
	論文(単著)	「シングル化の実態と問題の所在：家族形成は解決になるか？」(『生活協同組合研究』494巻、生協総合研究所) 14-21頁	2017. 3
	その他(単著)	「配偶者控除を考える三つの論点」(『金融ジャーナル』12巻、日本金融通信社) 30-31頁	2016.12
	その他(分担執筆)	「視点：欧米と逆向きの日本」(読売新聞昭和時代プロジェクト著、『昭和時代：1980年代』、中央公論新社) 267頁	2016. 8
津止 正敏	著書(共著)	「男性介護者の輪を作る」(増川敏英・池田武邦・市川たい子他、『NHK ラジオ深夜便 こころの時代 インタビュー集1』、名著出版) 53-66頁	2017. 3
	論文(単著)	「一人で抱え込む男性介護者への生き方モデルを」(『公明』124巻、公明党機関紙委員会) 22-27頁	2016. 4
	論文(単著)	「京都での障害児者の運動―障害児者・家族と支援者の合力―」(『みんなのねがい』601号、全国障害者問題研究会) 24-25頁	2016. 8
	研究発表等 (単独)	「男性介護者と社会情勢について」(認知症介護指導者大府ネットワーク全体研修会、於：龍谷大学アバンティ響都ホール)	2016.12
	その他(単著)	「男性介護者への社会的関心の広がりが意味すること―介護のある暮らしを社会の標準に―」(『男女共同参画通信』vol.44号、京都市男女共同参画推進協会) 4-5頁	2017. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
津止 正敏	そ の 他 (司会・パネリスト等)	『『認知症：ともに新しい時代へ』—日本の当事者団体・あつまる—』(第32回国際アルツハイマー病協会国際会議プレイベント (京都), 於: 京都テルサ)	2016. 9
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	『『認知症：ともに新しい時代へ』—日本の当事者団体・あつまる—』(第32回国際アルツハイマー病協会国際会議プレイベント (東京), 於: 東京都新宿区四谷区民ホール)	2016.10
富永 京子	著書(単著)	『社会運動のサブカルチャー化—G8サミット抗議行動の経験分析』(せりか書房) 全336頁	2016. 9
	著書(単著)	『社会運動と若者—日常と出来事を往還する政治』(ナカニシヤ出版) 全280頁	2017. 3
	論文(単著)	“Social Reproduction and the Limitations of Protest Camps: Openness and Exclusion of Social Movements in Japan” (Social Movement Studies 17巻2号, Routledge) 1-17頁	2017. 1
	研究発表等 (単独)	「若者と政治—若者による運動に内在する『対抗性』と『下位性』の変容—」(第64回関東社会学会大会, 於: 上智大学四谷キャンパス)	2016. 6
	研究発表等 (単独)	「若者の運動参加と社会運動の『動態』／『静態』—2000年以降の若年層による社会運動を事例として」(第89回日本社会学会大会, 於: 九州大学伊都キャンパス)	2016.10
	研究発表等 (単独)	“Contemporary Youth Movements in Taiwan and Japan: The Possibility of Vitalizing Civil Society in East Asia” (2016台湾社會學年會, 於: 國立東華大學人文社會科學學院)	2016.11
	研究発表等 (単独)	“Consumer Movement in Fluidarity and Individuality: Rethinking Practices of Consumer Movement as Sharing Experiences” (Corporate Social Responsibility as Collaboration among the Government, Business and Civil Society, 於: Seoul National University Asia Center)	2017. 3
仲井 邦佳	論文(単著)	「スペイン語統語論における『内心構造／外心構造』概念の発展—『単心構造／複心構造／二心構造』の提案—」(Revista de Estudios Hispánicos de Kioto 16号, 京都外国語大学イスパニア学研究) 69-95頁	2016.12
	論文(単著)	“Los sistemas verbales del español y del japonés y su explicación en la enseñanza de lenguas” (『立命館経営学』5巻55号) 131-151頁	2017. 2
	研究発表等 (単独)	“Estudio contrastivo español-japonés: para la mejora de la enseñanza de español/LE” (Taller en Cursos Internacionales de la Universidad de Santiago de Compostela)	2016. 6
	研究発表等 (単独)	「スペイン語二極文の再定義と複文の新たな分類」(日本イスパニヤ学会第62回大会, 於: 神戸市外国語大学)	2016.10
	その他(単著)	「スペイン語講座 (25) 選択の統詞 o 等の表現について」(『Acueducto』第25号) 30頁	2016. 5
	その他(単著)	「スペイン語講座 (26) 逆接の接続詞 pero 等の表現について」(『Acueducto』第26号) 30頁	2016. 8
	その他(単著)	「スペイン語講座 (27) 推断の接続詞 luego 等の表現について」(『Acueducto』第27号) 30頁	2016.11
	その他(単著)	「スペイン語講座 (28) 時の接続詞 cuando 等の表現について」(『Acueducto』第28号) 32頁	2017. 2
長澤 克重	その他(単著)	「ユネスコ文化統計の枠組み (2009 UNESCO FCS) による文化産業と文化雇用」(『労働統計研究部会報』No.30, 経済統計学会) 2-5頁	2017. 3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
永島 昂	論文(単著)	「戦後日本の銑鉄鋳物産業の展開と中小専門鋳物メーカー」(『中央大学経済研究所年報』48巻) 271-298頁	2016.9
	研究発表等 (単独)	「戦後日本鋳物産業の技術形成」(日本科学史学会 第29期第5回科学史学校、於：日本大学)	2016.12
中西 純司	著書(共編著)	『図とイラストで学ぶ 新しいスポーツマネジメント』(山下秋二・中西純司・松岡宏高編、大修館書店) 106-125頁・138-149頁	2016.11
	著書(共編著)	『よくわかるスポーツマネジメント』(柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編、ミネルヴァ書房) 8-9頁・76-77頁・202-203頁	2017.3
	論文(単著)	「スポーツ組織の『マーケティング力』に関する実態調査報告—民間スポーツ・フィットネスクラブ組織の場合—」(『立命館産業社会論集』52巻2号) 123-141頁	2016.9
	論文(単著)	「第4章 3年間のまとめと今後の研究課題：『する』スポーツ価値意識研究の展望と課題」(平成28年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告Ⅰ『新たなスポーツ価値意識の多面的な評価指標開発—第3報—』) 40-47頁	2017.3
	論文(共著)	「『柔の原理定着尺度』の開発を通じた柔道の学習内容の提示」(有山篤利・島本好平・中西純司、『体育学研究』61巻2号、日本体育学会) 421-433頁	2016.5
	研究発表等 (単独)	「スポーツ組織における『マーケティング力』測定指標の開発研究(Ⅱ)—マーケティング戦略策定の構造に焦点をあてて—」(日本体育学会第67回大会、於：大阪体育大学)	2016.8
中西 典子	論文(単著)	「英国のローカリズム政策をめぐる地方分権化の諸相(一)—労働党から保守党・自由民主党連立を経て保守党単独政権に至るまでの経緯—」(『立命館産業社会論集』52巻1号) 85-107頁	2016.6
	論文(単著)	「英国のローカリズム政策をめぐる地方分権化の諸相(二)—労働党から保守党・自由民主党連立を経て保守党単独政権に至るまでの経緯—」(『立命館産業社会論集』52巻2号) 43-66頁	2016.9
	論文(単著)	「英国のローカリズム政策をめぐる地方分権化の諸相(三)—労働党から保守党・自由民主党連立を経て保守党単独政権に至るまでの経緯—」(『立命館産業社会論集』52巻3号) 55-76頁	2016.12
	論文(共著)	「地方分権改革と地域再生に関する調査研究—京都府北部地域における生活福祉とガバナンス—」(黒田学・長谷川千春・野村実、『立命館産業社会論集』52巻3号) 125-138頁	2016.12
	その 他 (同会・パリス等)	「一般研究報告(1)『地域社会・地域問題(2)』部会」(日本社会学会第89回大会、於：九州大学伊都キャンパス)	2016.10
	その 他 (同会・パリス等)	「日本社会学会第89回大会総会」(日本社会学会第89回大会、於：九州大学伊都キャンパス)	2016.10
仲間 裕子	著書(共著)	“THE PERIOD ROOMS Allestitimenti storici tra arte, collezionismo e museologia” (ed. Sandra Costa, Dominique Poulot, Mercedes Volait, Bologna University Press, Bologna) 77-84頁	2016.12
	論文(単著)	“The Aesthetics of Nature in Japanese Art in the Concept of ‘furyu’” (estetica, studi e ricerche VI巻2号, il Mulino) 269-283頁	2016.7
	研究発表等 (単独)	“Environmental Space of Japanese Landscape Painting: Gaze, Senses, and Atmosphere” (20th International Conference of Aesthetics, Seoul, Korea)	2016.7
	研究発表等 (単独)	「ロマン主義的アイロニーの風景画—風景は風景を超える?—」(立命館土曜講座「美術のたくらみ—イメージの越境と接触—」, 立命館大学衣笠キャンパス)	2016.11

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
仲間 裕子	研究発表等 (単独)	「C.D. フリードリヒ・ロマン主義的風景と文学」(国際カンファレンス「風景と文学, 文学と風景」, 立命館大学平井嘉一郎図書館カンファレンスルーム)	2017. 3
中村 正	論文(単著)	「暴力臨床の実践と理論」(『季刊 刑事弁護』87号, 現代人文社) 74-77頁	2016. 7
	論文(単著)	「孤立する関係性とドメスティック・バイオレンス: 三重の沈黙化作用(サイレンシング)」(『青少年問題第62巻秋季号』通巻665号, 青少年問題研究会) 10-17頁	2016.12
	論文(単著)	「不安定な男性性と暴力」(『立命館産業社会論集』52巻4号) 1-17頁	2017. 3
	研究発表等 (共同)	「対人援助学会理事会企画シンポジウム『相模原事件を考える』」(臼井正樹・梁陽一他, 第8回対人援助学会, 於: 神奈川県立保健福祉大学)	2016. 9
	研究発表等 (共同)	「男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために(その5) —1980年代『ほっち君』の大学生活にみる男性性ジェンダーの考察—」(國友万裕, 第8回対人援助学会, 於: 神奈川県立保健福祉大学)	2016. 9
	研究発表等 (共同)	「『物語』を手掛かりにした東日本大震災後コミュニティ支援の実践—ホモ・ナラティブリスト(物語る人間)と聴く人が出会う『復興の証人10年プロジェクト』から—」(村本邦子, 第8回対人援助学会, 於: 神奈川県立保健福祉大学)	2016. 9
	研究発表等 (共同)	「情状弁護の質的転換を考える」(第17回法と心理学会, 於: 立命館大学大阪いばらきキャンパス)	2016.10
	研究発表等 (共同)	「大会企画シンポジウム: 対話 なぜ, 人間の子育てに 共同保育が不可欠なのか? ~多様に協働・共同する子育てと暴力・虐待防止~ (山極寿一, 黒田公子とのダイアログ)」(日本子ども虐待防止学会第23回おおさか大会, 於: 大阪国際会議場)	2016.11
	研究発表等 (共同)	「脱暴力に向けた保護者へのグループ・アプローチ—児相と民間(大学)の協働—」(日本子ども虐待防止学会第23回おおさか大会, 於: 大阪国際会議場)	2016.11
	その他(単著)	「臨床社会学の方法 (13) 社会構築主義」(『対人援助マガジン』7巻1号, 対人援助学会) 20-29頁	2016. 6
	その他(単著)	「臨床社会学の方法 (14) 男らしさのラビリンス(迷宮)」(『対人援助マガジン』7巻2号, 対人援助学会) 28-39頁	2016. 9
	その他(単著)	「臨床社会学の方法 (15) 社会的孤立と感情的苦痛—嗜癖と嗜虐の背後にあるもの—」(『対人援助マガジン』7巻3号, 対人援助学会) 23-35頁	2016.12
	その他(単著)	「臨床社会学の方法 (16) 治療的司法」(『対人援助マガジン』7巻4号, 対人援助学会) 22-32頁 『対人援助学マガジン』 URL: http://www.humanservices.jp/magazine/index.html	2017. 3
根津 朝彦	著書(分担執筆)	『日本生活史辞典』(安田常雄他編, 吉川弘文館) 77-78・86・103-104・152-153・155-156・189・216頁他	2016.10
野田 正人	著書(分担執筆)	『教育の最新事情がよくわかる本3』(教育開発研究所編, 教育開発研究所) 113-118頁	2016. 6
	論文(単著)	「新たな不登校児童生徒への支援を考える」(『生徒指導学研究』第15号, 日本生徒指導学会) 40-47頁	2016.12
	研究発表等 (単独)	「教育相談体制の充実とスクールソーシャルワーカーへの期待」(日本スクールカウンセリング推進協議会公開シンポジウム2016, 於: 大手前大学さくら夙川キャンパス)	2016. 8

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
野田 正人	研究発表等 (単独)	「子どもの育ちと家庭を支える学校」(日本学校ソーシャルワーク学会第11回東京大会、於：法政大学多摩キャンパス)	2016. 8
	その他(単著)	「『不登校予備軍』の子どもをどう見立てるか」(『月刊教職研修』通巻534号、教育開発研究所) 22-23頁	2017. 2
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「教育相談と学校づくり チームで取り組む不登校支援」(安藤敦子・野本実希、日本学校教育相談学会 第11回近畿・石川ブロック研究大会、於：神戸市産業振興センター)	2016.10
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「校種の違いによる学校で見えるネグレクトと対応方法の実際」(郭理恵・奥村賢一・李慶姫・山中徹二、日本子ども虐待防止学会第22回学術集会大阪大会、於：大阪国際会議場)	2016.11
長谷川千春	論文(共著)	「地方分権改革と地域再生に関する調査研究—京都府北部地域における生活福祉とガバナンス—」(黒田学・中西典子・野村実、『立命館産業社会論集』52巻3号) 125-138頁	2016.12
樋口 耕一	論文(単著)	“A Two-Step Approach to Quantitative Content Analysis: KH Coder Tutorial Using Anne of Green Gables (Part I)”(『立命館産業社会論集』52巻3号) 77-91頁	2016.12
日暮 雅夫	著書(分担執筆)	『哲学中辞典』(尾関周二・後藤道夫他編、知泉書館) 30・270-271・279・550-551・563-564頁他	2016.12
	論文(単著)	「アクセル・ホネットのネオリベリズム批判」(『立命館産業社会論集』52巻2号) 1-11頁	2016. 9
	研究発表等 (単独)	「ホネット『自由の権利』における「社会的自由」の意義と問題」(日本社会学理論学会第11回大会、於：神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス)	2016. 9
	研究発表等 (単独)	“Critique of Neoliberalism from the Standpoint of Critical Social Theory”(International Postgraduate And Academic Conference 2017, Session for Academic Researchers、於：立命館大学衣笠キャンパス)	2017. 2
日高 勝之	著書(共著)	“Past, media, and protest: The Japanese media's nostalgia for the recent past”(Paul Reilly, Anastasia Veneti and Dimitrinka Atanasova eds, “Politics, Protest, Emotion: Interdisciplinary Perspectives”, Information Centre, University of Sheffield) 52-56頁	2016.12
	論文(単著)	「『メタ政治的正義』としての原発・エネルギー議題～フクシマ後の『原発議題』報道の検証必要性～」(『立命館産業社会論集』52巻3号) 35-53頁	2016.12
	研究発表等 (単独)	「【われら『不審者』なり】のデモクラシーは(いかにして)可能か～山本圭著『不審者のデモクラシー』をめぐって～」(現代社会理論研究会、於：立命館大学)	2016. 7
	研究発表等 (単独)	「1960年代のメディア・ナラティブの変容と21世紀の『昭和ノスタルジア』にみる1960年代中葉の歴史文化的位置」(『平凡パンチ』と東京オリンピックの時代—戦後日本の消費文化、マスメディア、社会的想像力、於：東京外国語大学)	2016. 7
	研究発表等 (単独)	「テレビと映画のインターフェースから考える1964年＝東京五輪の時代」(日本マス・コミュニケーション学会第35期第7回研究会、於：立教大学)	2016. 9
	研究発表等 (単独)	「ジャーナリズムと『原発』議題～フクシマ後の報道を考える」(名古屋大学大学院メディア・プロフェッショナル講座特別講義、於：名古屋大学)	2016.11

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
日高 勝之	研究発表等 (単独)	「歴史的カストロフィの記憶をメディアートする批評的契機の可能性～藤巻光浩著『アメリカに渡った「ホロコースト」をめぐって～」(日本コミュニケーション学会第12回中部支部大会、於：愛知淑徳大学星が丘キャンパス)	2016.12
	研究発表等 (単独)	「メディアと戦後教育～佐藤卓己著『青年の主張 まなざしのメディア史』を読んで～」(京都大学教育学部シンポジウム、於：京都大学吉田キャンパス)	2017. 3
	研究発表等 (単独)	「『メタ政治的正義』としての原発・エネルギー議題～フクシマ後の『原発議題』言説・ジャーナリズムの検証必要性～」(日本社会学会・第3回東日本大震災研究交流会、早稲田大学戸山キャンパス)	2017. 3
福岡 良明	著書(単著)	『働く青年』と教養の戦後史 「人生雑誌」と読者のゆくえ』(筑摩書房) 全352頁	2017. 2
	著書(分担執筆)	「覆され続ける「予期」—映画『軍旗はためく下に』と「遺族への配慮」の拒絶」(好井裕明・関礼子編、『戦争社会学』, 明石書店) 93-122頁	2016.10
	論文(単著)	「『慰霊祭』の言説空間と『広島』『無難さ』の政治学」(『現代思想』2016年8月号, 青土社) 216-227頁	2016. 8
	論文(単著)	「記憶の『封印』と『発明』:『継承』と『忘却』の歴史社会学」(『時間学研究』10巻, 日本時間学会) 21-30頁	2016.12
	論文(単著)	「『死者の政治主義』の加速:靖国神社国家護持運動をめぐって」(『立命館産業社会学論集』52巻4号) 153-163頁	2017. 3
前田 信彦	論文(単著)	「専門学校におけるリカレント教育と学習成果・職業能力」(『立命館産業社会学論集』52巻1号) 169-181頁	2016. 6
	論文(単著)	「立命館大学におけるキャリア教育の成果と課題」(『立命館高等教育研究』17号) 1-18頁	2017. 3
	その他(単著)	「アクティブ・エイジングの考え方」(『みんなのスポーツ』428号, 日本体育社) 12-14頁	2016.11
増田 幸子	研究発表等 (単独)	「終戦記念テレビドラマにおける戦争の『語り』の諸相」(日本学術振興会平成28年度二国間交流事業 日韓セミナー、於：韓国・済州市コープ・シティホテル会議場)	2016.10
	研究発表等 (共同)	「終戦記念テレビドラマから見る戦争～戦後60年と戦後70年を比較から～」(第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム、於：香港公開大学)	2016.11
松島 剛史	研究発表等 (単独)	“Development of the Society through Sports and ‘Basic Act on Sport’ – A case Study on the Changes in National Consciousness by Rugby Japan National Team –” (運動與節慶文化國際學術研討會、於：文藻外語大學)	2016.10
松田 亮三	著書(分担執筆)	「福祉国家におけるケア供給の意義—医療の健康への寄与を中心に—」(近藤克則編著、『ケアと健康—地域・健康・病い(講座ケア 4巻)』, ミネルヴァ書房) 239-263頁	2016. 9
	論文(単著)	「トランスレーショナル対人支援研究:より能動的・体系的な学・実連携研究に向けて」(『立命館人間科学研究』No.34) 69-76頁	2016. 7
	論文(単著)	“Public/Private Health Care Delivery in Japan: And Some Gaps in “Universal” Coverage.” (Global Social Welfare 3巻, Springer International Publishing) 201-212頁	2016. 8

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
松田 亮三	論文(単著)	「政策分析という学術・技法—医療政策での活用を展望して」(日本医療経済学会会報33巻1号, 日本医療経済学会) 41-52頁	2017. 1
	研究発表等 (単独)	“Exploring a Public/Private Nexus of Health Care Provision: Ideas, Regulatory Frameworks, and Adaptability” (Third ISA Forum of Sociology, Vienna, Austria)	2016. 7
	研究発表等 (単独)	“A Comparative Politics of Funding in England and Japan: Policy problems and Institutions” (The 24th World Congress of Political Science, Poznan, Poland)	2016. 7
	研究発表等 (単独)	“Politics of Institutionalizing Economic Appraisal in Health Care in Japan” (The 11th meeting of the International Society for Priorities in Health, Birmingham, UK)	2016. 9
	その他(単著)	「ケアの資源配分という難問に向けて：英国での医療配給論をめぐって」(『月刊 保団連』No.1223, 全国保険医団体連合会) 10-15頁	2016. 9
丸山 里美	著書(共著)	「質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学」(岸政彦・石岡丈昇著, 有斐閣) 37-94・250-253頁	2016.12
	著書(分担執筆)	「ラベリング理論」(西村大志・松浦雄介編, 『映画は社会学する』, 法律文化社) 2-36頁	2016. 7
	論文(共著)	「韓日における子ども・若者の生活困難状態に関する基礎的研究—『家出』問題に関する韓国の青少年政策に着目して」(岡部茜・林徳栄・深谷弘和・山本耕平, 『立命館産業社会論集』52巻1号) 131-148頁	2016. 6
	その他(単著)	「見えにくい女性の貧困から考える社会, 家族の課題」(『月間福祉』2017年2月号, 全国社会福祉協議会) 56-57頁	2017. 2
三笥 利幸	著書(分担執筆)	「現代における『価値自由』の意義—『没価値性』を超えて」(中野敏男他編, 『マックス・ヴェーバー研究の現在』, 創文社) 253-265頁	2016.12
峰島 厚	論文(単著)	「問われる労働の質, 支援の質—職業リハビリテーションの視点から—」(日本職業リハビリテーション学会第44回京都会抄録集, 日本職業リハビリテーション学会) 20-29頁	2016. 8
	研究発表等 (共同)	「問われる労働保障の質—企業経営の在り方と福祉の視点から—」(伊藤修毅・高橋信二, 日本職業リハビリテーション学会第44回京都会, 於：立命館大学衣笠キャンパス)	2016. 8
	その他(単著)	「職員の育ち合い, 育て合い—入職, 無我夢中, そして足踏みも・・・入職後3-5年には振り返りを」(『みんなのねがい』600号, 全国障害者問題研究会出版部) 44-45頁	2016. 7
	その他(単著)	「キーワードから読み解く福祉の今—ケアマネジメント」(『みんなのねがい』604号, 全国障害者問題研究会出版部) 47頁	2016.11
	その他(単著)	「障害者権利条約の履行状況を検証する・特集にあたって」(『障害者問題研究』44巻4号, 全国障害者問題研究会) 1頁	2017. 3
宮口 幸治	著書(単著)	『1日5分! 教室で使えるコグトレ 困っている子どもを支援する認知トレーニング122』(東洋館出版) 全200頁	2016.10
	著書(単著)	『教室の困っている発達障害をもつ子どもの理解と認知的アプローチ—非行少年の支援から学ぶ学校支援』(明石書店) 全120頁	2017. 2
	論文(単著)	「矯正から期待すること」(『授業UD研究』1巻, 日本授業UD学会) 34-37頁	2016. 6

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
宮口 幸治	研究発表等 (単独)	「コグトレとは—その背景と実際—」(日本授業 UD 学会東京支部定例会、 於：筑波大学付属小学校)	2016. 8
	研究発表等 (共同)	「身体的不器用さをもった医療少年院在院者への認知作業トレーニングの有効性—AMPSを用いた検証—」(宮口英樹・石附智奈美・西田征治・安永正則、第50回日本作業療法士学会、於：札幌市教育文化会館)	2016. 9
	研究発表等 (共同)	「性の問題行動をもつ子どもたちへの支援 発達障害・知的障害のある児童・青年の理解と支援」(宮口英樹・川上ちひろ・國分聡子・石附智奈美・小栗正幸、日本 LD 学会第25回大会、於：パシフィコ横浜)	2016.11
山下 秋二	著書(編著)	「図とイラストで学ぶ 新しいスポーツマネジメント」(中西純司・松岡宏高、大修館書店)全211頁	2016.11
山下 芳樹	著書(編著)	『物理の学び徹底理解(力学・熱力学・波動編)』(宮下ゆたか・山本逸郎著、ミネルヴァ書房)全240頁	2016. 9
	著書(編著)	『物理の学び徹底理解(電磁気学・原子物理・実験と安全)』(宮下ゆたか・山本逸郎・船田智史著、ミネルヴァ書房)全192頁	2016.12
	その他(単著)	「イギリスの科学教育から学ぶこと」(『化学』71巻7号、化学同人)11頁	2016. 7
	その他(監修)	「DVD 教材地球と宇宙(全5巻)」(パンドラ)	2016. 5
山本 耕平	論文(単著)	「子ども・若者支援地域協議会の実践課題に関する考察—若者ソーシャルワークの実践局面との関わりを中心に—」(『都市とガバナンス』27巻、日本都市センター)58-67頁	2017. 3
	論文(単著)	「主体の育ちを目指すひきこもり支援をめぐって—支援の場に流れる『力』に抗う実践」(『佛教大学総合研究所共同研究成果報告論文集』5巻)157-168頁	2017. 3
	論文(共著)	「韓日における子ども・若者の生活困難状態に関する基礎的研究—『家出』問題に対する韓国の青少年政策に注目して—」(岡部茜・林徳栄・深谷弘和・丸山里美、『立命館産業社会論集』52巻1号)131-148頁	2016. 6
	研究発表等 (単独)	「日本における青年期の発達を支える住宅政策と実践に関する検討」(韓国健康社会研究院招待講演、於：ソウル特別市、韓国健康社会研究院)	2016. 9
吉田 誠	論文(単著)	「朝鮮戦争勃発以降における全自日産分会の臨時工問題への取り組みの展開」(『立命館産業社会論集』52巻1号)71-83頁	2016. 6
	論文(単著)	「日産における1950年代初頭の転換嘱託問題について」(『立命館産業社会論集』52巻2号)29-41頁	2016. 9
リム ボン	論文(単著)	「耳原総合病院建て替え事業にみる協同の思想」(『立命館産業社会論集』52巻2号)113-122頁	2016. 9